令和5年度ふるさと企業大賞・社長に聞く

地元受験生をお米で応援！佐賀の食と農業の未来に貢献していくことが使命。

株式会社JA食糧さが

九州の米どころ佐賀県のほぼ中央に位置する多久市は、儒教の祖・孔子の教えによる論語教育が活発で、「孔子の里」としても知られています。佐賀県産の精米製品を販売する株式会社JA食糧さがは、孔子を祀る多久聖廟にあやかった商品を企画・販売し、地元受験生から好評を博しています。商品の生まれたきっかけや、佐賀の農業に対する思いを、代表取締役社長の宮﨑第五郎氏に伺いました。

代表取締役社長
宮﨑（みやざき） 第五郎（だいごろう）氏

株式会社JA食糧さが
〒846-0003
佐賀県多久市北多久町大字多久原306-26
TEL:0952-76-3000
https://sagakome.jp/

●業務内容
米穀の販売及び搗精、関連商品の販売

【沿革】
昭和26年 東松浦米穀販売協同組合設立、米穀卸を主業務とする
平成元年 『株式会社 シー･ピー食糧』を設立し、佐賀県米穀販売協同組合の精米工場を引き継ぎ営業開始
平成22年 (株)佐賀米商との事業統合により 新社名『株式会社JA食糧さが』で営業開始
平成26年 佐賀県多久市に平成25年度強い農業づくり交付金事業「農産物処理加工施設」完成。
※推薦事業(ふるさと融資活用401百万円)
同年 佐賀県多久市に本社移転、新「農産物処理加工施設」本稼働開始

佐賀の中央に位置する多久市で操業

弊社は平成元年、佐賀県経済連(現JAさが)等の出資により(株)シー・ピー食糧として佐賀県唐津市で営業を開始。平成22年に佐賀市の(株)佐賀米商と事業統合し、米の精米および販売事業を行う現在の(株)JA食糧さがになりました。私は令和2年6月に、JAさがからの出向という形で社長に就任し、令和3年4月からは正式に弊社専属となっています。

平成26年12月、工場設備の老朽化や、近隣住宅に対する騒音等の課題をクリアするため、唐津市から現在の多久市に本社および工場を移転。会社統合をしたこともあり、社員の居住地が唐津市や佐賀市など様々で、通勤も含めた利便性を考えると、両市の中間地点にある多久市は最適地です。また、多久市は佐賀県全体から見てもほぼ真ん中の位置にあたり、今後の佐賀県出身者の社員採用、さらに長崎県や福岡県などにも商品を販売している点なども含め、地理的なメリットが大きいと判断しました。移転時に工場を新設して設備を整え、現在も異物混入検知など精度の高い最新の機械を導入しています。

安心安全にワンチームで取り組む

弊社の経営理念は「会社の信用を重んじ、顧客に満足される安全で安心な製品を供給することにより社会に貢献する」。JAの子会社であり、日本人の主食である米に関わる企業として、安全・安心な製品の供給と供給責任を果たすこと、佐賀県産米の評価向上や佐賀の農家に貢献することが私たちの使命だと考えています。主に飲食店などで使用する業務用精米の販売を行っていますが、学校給食への納入も多く、「地元のお米を安心して食べられる」という意味では、子どもたちへの食育の一助にもなっているのではないでしょうか。

弊社は常勤の役員・社員が36名という規模ながら、出身母体も社員の出身地も様々です。私も社長に就任してから日が浅いため、チームワークや風通しの良い会社を目指して奔走している真っ最中。小さな会社だからこそ、何事もワンチームで取り組んでいきたいと考えています。

『縁起米』で受験生を応援

私が社長に就任した令和2年6月は、同年1月から感染拡大した新型コロナによる大きな打撃を日本中が受けていた頃。弊社も売上の大半を占める業務用精米の出荷が滞り、販売チャネルの拡大として、当時まだ未対応だったふるさと納税返礼品やネット販売への取り組みを検討していました。問題は、後発の我々が参入することで、もともと出品していた地元の米生産者に競合して水を差してしまわないかということです。

そこでひらめいたのが、多久市の観光地のひとつであり、国の重要文化財に指定されている多久聖廟にあやかった商品の企画です。多久市には古くから孔子を祀った多久聖廟

(左)精米機などの機器はシステムで一括管理。最新鋭の設備で安全かつ効率的に製造。
(下)合格祈願が込められた『縁起米』。宮﨑代表のこだわりが詰まったパッケージも特徴的。

を中心に、論語教育が熱心に行われており、これなら地域性を出しつつも他商品と競合することはありません。私自身も息子の合格祈願のため多久聖廟を参拝していたこともあり、学問の神様である孔子の力をお借りし、受験生を応援する商品として企画を進めていきました。

そして、令和3年産の新米から『縁起米(えんぎまい)』というシリーズ名で商品が完成。お米の品種名を商品名に取り入れ、「合格の光」(品種名:ヒノヒカリ)、「合格の夢」(品種名:夢しずく)、「合格びより」(品種名:さがびより)の3種類を製造しました。パッケージには多久聖廟を大きくデザインし、商品ロゴとのぞき窓の五角形は受験シーズンに参道に設置される「合格門(五角門)」をイメージ。有名な論語の一節もあしらっています。

完成した『縁起米』は多久聖廟にて奉納の儀式を執り行い、多久市内の義務教育学校や高校に贈呈。この試みは発売以来毎年行っており、令和5年産の『縁起米』を贈呈した際には、多久市教育長から「市内生徒の合格率が上がっている」と伺い、大変嬉しく思いました。もちろん受験生の皆さんの努力のたまものですが、『縁起米』によって多久聖廟のご利益をいただけたのではとも思っています。

地元農業の未来のために貢献

今後の多久市の課題は、やはり農家の皆さんの高齢化・後継者不足です。中山間地のため狭くて非効率な田んぼも多く、耕作放棄による不作付け地が増えていくと思われます。現在、県内農家さんの労働力支援として、弊社社員に対し、農業に限っては副業を認める方針で動いています。農作業を依頼したい農家さんとマッチングを行い、社員の休日などを利用して始められるよう調整中です。

私自身も佐賀市の専業農家の生まれで、現在は兼業農家として自宅で米の栽培をしています。耕作放棄をされた土地についても他人事ではありません。弊社としても、多久市やJAさがと十分に連携し、佐賀の農業のために何ができるかをこれからも考えてまいります。